

【佳作】「給食をふり返って」

祥南小学校 前野 拓海

ぼくは、給食をこれまで食べてきて学んだことがあります。それは、食べることの大切さです。栄養をたくさんとれるようにいろいろな物を食べることが必要と知ったのが給食を食べ始めてからです。

ぼくは、みんなで食べるとおいしいということも、給食を食べることで気づきました。みんなでしゃべりながら食べると、苦手なものでもおいしく感じました。逆に、一人で食べるとさみしいせいか、おいしい物もあまりおいしく感じません。お母さんが、「みんな仲良く食べると食べている物がおいしく感じるね。」

と言っていたことを思い出しました。ぼくは、その通りだと思いました。

他にも、好ききらいをせず、残さず食べることが大切ということを知ったのも給食でした。ぼくは、小さいころからピーマンが苦手で、三年生までは全く食べられませんでしたが、しかし、四年生のとき、そろそろ食べられるのではないかと勇気を出して食べてみました。そうしたら、食べられました。ぼくにとって、給食の「ひじきのふりかけ」の中に入っているピーマンが、初めておいしく食べられたピーマンです。

給食には、楽しい思い出がたくさんあります。一番心に残っているのは、「ふれあい会食」です。給食を

食べる前にやった「山手線ゲーム」は、とてもおもしろかったです。お題に合った言葉はたくさんあるのに、いざというときになかなか思いつかなかったことを今でも覚えています。みんなでゲームをした後に食べた給食は、いつも以上においしく感じました。

給食を食べながら班のみんなで「笑っちゃだめ」ゲームをしたこともありました。このゲームは、一人の子が笑わせる役で、他のみんなは声を出して笑わないようにするゲームです。りゅうと君が笑わせると、とってもおもしろくて、みんな笑ってしまいます。ぼくも、毎回笑ってしまいます。ゲームをやりながら笑うのがまんするより、たくさん笑った方が給食が楽しくなると気づきました。ぼくは、みんなで笑いながら食べる給食の時間が大好きです。

ぼくにとって給食は、学校生活でなくてはならない大切な時間です。だからこそ、毎日給食を作ってくださる給食センターの方々にはとても感謝しています。ぼくは、これからも給食の時間を楽しみにしていきます。みんなとたくさん笑ったりしゃべったりしながら、しっかりと食べたいと思います。